



世界の ミカタタイムズ



発行：学校から世界のミカタを考える会

桜の枝を土に挿してたら根っこが出てきて花が咲くんだって！サステイナブル！

新年度が始まりました！

少し遅れましたが、今年も桜が綺麗に咲きました。

いつまでも続くかと思われた厳しい冬の寒さも和らぎ、ぽかぽかと眠気を誘う季節になりましたね。

さて、早速ですが次の一文を読んでください。

「これからの学校には、（中略）あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」



満開の桜@舞鶴公園

春でなくても眠くなりそうな小難しい文章ですが、これは新学習指導要領の一文です。

※学習指導要領とは各学校がどのような教育活動を行うのかを決定するための指針を文科省が定めているものです。これにより全国のどこの地域で教育を受けても一定の水準が保たれています。

前回は少し触れましたが2020年からの10年間を見据えた新しい学習指導要領が告示されました。そこには「生きる力」の理念を捉え直し具体化した記述をはじめ、昨今話題となっている道徳の時間が教科化されることや、プログラミング教育の実施についても明記されています。そして、さらに上述のような内容もひっそりと書かれています。

もう一度じっくりと引用した部分を読んでみてください。今回の学習指導要領には、端的に言う2030年の社会を見据えた時にこれからの学校に求められることは何か書かれています。その中の一つとして教育基本法に定められた根幹となる様々な目的と並んで、「持続可能な社会の創り手」を育むことが求められると明示されているのです。

ただ、これは今に始まったことではなく、実は現行の学習指導要領でも触れられている内容です。大きな話題になることがなかったためにあまり知られていないだけで、本来は学習指導要領に記載されているということはこれまでもこれからも学校教育全体で目指す目標なのです。

さて、この学習指導要領にも明示されている「持続可能な社会の創り手」を育む教育こそがミカタの活動の中心であるESD (Education for Sustainable Development) です。

年度は変わりましたが、ミカタの目的は変わりません。

「持続可能な社会の創り手」を育むため、まずは気負わず自分たちの活動内容を持続可能な範囲に調整しつつ、今年度ものびのびと活動をしていきます。

教えてちよっとだけ！
国際理解教育入門

ファシリテーションって何？（その3）
話しやすい雰囲気の作り方。

ファシリテーションを行うにあたって必要なことに会場の
＜雰囲気づくり＞があります。

これは前回紹介した「場づくり」と混同されそうですが、
ほとんどが事前に計画し、準備をすることができる場づくり
に対し、雰囲気づくりは参加者が集まり、実際に場が動き始
めなければできません。

あなたがもし参加者だったらどのようなファシリテーター
が会場にいて欲しいですか？

例えば、あなたが何か意見を言おうとした時に「それは
ちょっとおかしくないですか？」と言われたらどうでしょう。
あるいは、発言をしようとした時に、「ちょっとすいません」
なんてカットインされたらどんな気持ちになりますか。一度
でもそんな扱いをされたら、その後どれだけ意見を聞かれて
も口を閉ざしてしまうかもしれませんよね。

そうです、雰囲気づくりの基本形は＜意見を否定しないこ
と＞と＜話をさえぎらないこと＞です。

この二つが守られくここでは安心して話してもいいんだ
＞という雰囲気ができれば、参加者との間に信頼関係ができ
ます。つまり、雰囲気づくりと言うのは言い換えれば＜人間関
係づくり＞と同じです。参加者との間に人間関係ができ、安
心して自由に発言ができるようになるから、そこに意見が集
まり、問題解決に向けて話が進められるのです。参加者同士
が疑心暗鬼に陥り、口を閉ざす空間では、新しいアイデアも
生まれなければ、直面している問題の突破口も開けないこと
は自明でしょう。

この、話しやすい雰囲気を作るためのスキルとして発問の
方法・種類や、聞き方のコツがあるのですが、それについて
は次号で詳しく説明します。

まずはぜひ会議や話し合いの場で「否定しない」「さえぎ
らない」の二つを実践してみてください。きっと相手との関
係性が劇的に改善されて意見が多く出てくると思いますよ。

ミカタまんか！！
右手さんと左手さん
～世界のこわざを知らう～



今月の写真

これはなんでしょう？



綺麗な色づかい。
どこの国かわかりますか？
紙面の都合上サイズが小さくなっ
ていますので、大きな写真は世界のミカタ
のホームページでご確認ください。

お子さんが何歳の時まで授乳していましたか。
私の娘は現在2歳ですが、母乳育児を続けています。
日本では、生後1年前後での断乳が一般的です。
しかし、国によって母乳育児事情も様々。例えば、母乳育児
が強く推奨されているオーストラリアでは、生後6か月ま
での完全母乳育児率が60%を超え、5-6歳まで授乳するお母
さんもあるそうです。それに対し産後3か月で職場復帰をする
フランスでは、母乳育児を好むお母さんは少なく、薬で母乳
を止めることもあるそうです。

ちなみに、WHO（世界保健機構）は、生後6か月の完全母乳
育児と2年以上の母乳育児を推奨しています。免疫・栄養学
的な理由に加え、精神面が安定するなどの理由からもメリッ
トの多い母乳。日本での常識に惑わされず、自分の判断で卒
乳や断乳をすればいいのではないのでしょうか。



ちなつママの
グローバル子育て日記